

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム百楽苑		
所在地	愛知県蒲郡市三谷町南寺戸12-1		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成23年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(Bフロー)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆が目に触れるところに掲示し共有化できている。地域との連携において、地域向け広報紙の回覧を協力いただいたり、地域住民が施設の催しに参加いただけるよう広報を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者とともに地域のスーパーや保育園、小学校等へ出かけたり、個人の要望に応え入居前から利用している店舗での買い物、歯科受診、美容院等への外出介助を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方のご理解をいただけるよう、地域向け広報紙を発行している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方から情報提供をいただき、地域の催し物に参加した。地域向け広報紙の発行の際にもご指導いただき、取り組みについても報告し情報交換ができています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	要介護認知の更新手続き、後期高齢者医療の制度等について、担当課と連絡を取った。また、運営推進会議において、本市の認知症の方やサービスの意向に関する情報提供や地域の行事等について情報提供をしていただいた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望がある方の訴えには、傾聴するとともにご家族への電話介助と一緒に外出する等、で対応している。ご自分の身体状況の理解が乏しく外出への強い意志がある場合は、事故の危険性が高いこととお話し理解いただく努力をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する伝達研修を行い、周知に努めた。言葉による虐待、訴えを無視する等のネグレクトに対しても意識を持つことを		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受講し、その内容について伝達研修を行っている。また、日常生活自立支援事業を利用されている方について、成年後見制度への移行についてご家族及び関係機関と連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書により事業、料金等のご理解をいただいております、トラブルはない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会の際のアンケート調査や接遇に関するアンケートを行い事業に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体ミーティングを行い、事業改善及び入居者様の介護方針について検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回目標設定シート及び職階に応じた勤務評定を行うとともに、職員のヒアリングを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加するとともに、伝達研修による資質向上に努めている。また、法人全体として資格取得を奨励し、そのための勤務調整も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	蒲郡市サービス機関連絡協議会の研修等に参加し、情報交換及び資質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活暦、嗜好、趣味、仕事等についてアセスメントを行ったり、ケアマネージャーから介護計画をいただくことで支援の継続性を図っている。また、入居当初は、できるだけ施設になじんでいただけるよう声かけや傾聴を行ったり、他入居者様に話し相手になってい		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所に至るまでのご家族の思いを受け止め、理解に務めるとともに、入居後のご本人の様子について報告することで安心し信頼して過ごしていただける関係作りに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院からの紹介の場合は、医療と福祉サービスの違いについて説明し、ご本人やご家族の希望に沿ったサービスが提供できるかどうかを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや調理の味見、配膳等、できる能力に応じて行なっていた。その際に、おいしく作るコツや昔はどのように調理したか等の会話を楽しみながら行い、職員が「教わったり、新たな発見」をさせていただいたことをお伝えしながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の力は職員の介護に勝ることをお伝えし、ご家族にしかできないことがあることをお話している。また、近況をお伝えするため、行事のスナップ写真を毎月の便りに添えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が行っていたコンビニ、スーパー、歯科等が利用できるよう外出介助を行なっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい入居者様には、お話ができた、世話好きな方に紹介し、早くなじんでいただいている。また、不安で他入居者様と一緒にいることで安心される方は、トランプや壁面飾り作りにお誘いし、孤立感のないよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院されている方のところへお見舞いに行ったり、ご家族から近況をご報告いただくことがある。また、入居されていた方の配偶者のことでご相談を受けることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望をアセスメントし、介護計画にできるだけ反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、ご家族、ケアマネージャー、利用されていたサービス機関等から情報提供を受け、入居後の介護計画に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3ヶ月ごとのアセスメント及び6ヵ月後との介護計画の見直し及び変化のあった都度、介護の対応を協議している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の様子につき、ケアマネージャー、担当者、ホーム長、チーフ等が協議し、介護方針を立てる。ご家族に報告し了解をいただく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日誌に様態の記録を行っており、職員が情報の共有とその都度問題の対応協議に活用している。また、介護計画への反映をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出レクには参加されないが、外食がお好きな方には、個別に食事にお連れした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人福祉センター「寿楽荘」へお連れし、入浴施設のご利用ができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは医療連携を保ち緊急時にも対応していただけることを入居の際に説明し、紹介状により継続した医療を提供している。また、眼科、皮膚科、整形外科、心療内科等の専門性の高い医療が必要な場合は、個別に受診介助を行なっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の介護業務において異常に気づいた場合に、看護職へ報告し、適切な処置及び受診の必要性を協議している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、適宜、見舞いを兼ね医療スタッフ及びご家族から病状や身体状況の把握を行なっている。入院設備のある医療機関とは、空床情報の提供を行なう際、サービス内容、受け入れ可能な身体状況について情報提供を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のご希望については、入居時に意向確認を行なっている。また、実際に終末期の段階にきた場合は、それによらずご家族と再度、事業所で可能なことを説明し協議し、ご希望を伺っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修に参加し、職員が伝達研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回(内、夜間想定が1回)実施している。地域との協力体制は今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を行い、職員ひとりひとりの自覚を高めている。また、ことば使いチェック、みだしなみチェックを行い、職員の反省と気づきを定期的に行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で意思表示が困難な方には、A・Bどちらがよいか、という閉じられた質問を行い、ご自分の意思による希望が選択できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で「ダメ」と言わない支援を心がけている。日中活動はおひとりおひとりに意向を伺いながら過ごしていただいている。ゲームトランプ、パズル、カルタ、百人一首、あやとり等の遊びや壁面飾り用の折り紙の提供の声かけは行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など服選びの支援を行う。外出時は、ご本人の意思で着替えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の特性に応じ、食事の配膳、盛り付けを一緒に行なっている。また、食器洗いも無理のないよう声がけし行なっていただいている。食事の嗜好について栄養士に報告し反映させている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を把握し、健康状態の変化の有無を確認している。また、低栄養の状態がある場合は、栄養士に相談したり往診時に医師に状況説明し、エンシュアキット [®] の処方をしていただくことがある。また、特に夏季の入浴後は電解質の飲み物を提供し		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方には、声かけと見守りを行っている。義歯は夕食後、職員が介助し洗浄液につけて清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、声かけ・誘導によるトイレでの排泄を心がけている。また、パット・リハビリパンツ等を使用し、排泄の失敗による自尊心を損なわないよう配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	疾患による便秘の方にはセンナ茶を飲用していただいたり、医師から漢方薬を処方していただいている。また、イレウスを繰り返す方には、低残渣食を提供し、リスクを低くする努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前・午後提供できるように準備しており、声かけにより希望の時間・日にちに入らせていただいている。入浴がお好きでない方には、日々声かけし3日をめどに支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調は季節に応じ快適に過ごしていただけるよう配慮している。ご本人の希望に応じ、部屋の照明を整えたり、夜間訪室時の音や光に注意し安眠を妨げないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は一括して保管し、入居者様の誤飲が無いよう配慮している。また、薬情報はファイルし、用法を誤らないよう配薬している。薬の名前や効用・副作用も確認し、服薬による身体状況の変化の有無に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、掃除、洗濯等、ご本人の希望により行っている。喫煙を希望される方には、職員管理のもとで危険のないよう楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出については、職員配置によりご希望をかなえている。外出行事には利用者様のご意見を反映し、地域の寺や足湯等へ出かけている。また、墓参りやご自分の家の確認にはご家族に希望をお伝えし、外出支援をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族やご本人の希望により、ご自分で管理できる範囲内でお小遣いを所持し、買い物や外出行事の際に、希望のものを購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に一度担当者がご家族様宛に近況など報告しており、時には利用者様自身にも書いて頂いている。電話の申し出の際は事務所の電話をお使いいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に清掃、環境整備に努めている。又掲示物など季節感のあるものに統一し作成の際にはお手伝いして頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで談笑したり、トランプやゲーム、雑誌や新聞を読む等が自由にできる環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際して、茶碗、湯のみ、コップ、着せ、なじみのものや使い慣れたものをご用意いただいている。また、居室にはご自宅の部屋にあった家具、写真、置物等で危険のないものを持参し、配置をご家族と相談し居室環境を整備している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方は、手すりを利用しての手引き歩行、車椅子の自走やシルバーカー歩行等、できるだけ自立した生活を行っていただくよう支援を行っている。また、トイレや風呂が分かりやすいよう表示し、自立を促す工夫をしている。		